拠点

拠点５　板橋　（板橋区立赤塚福祉園）

１）事業概況(運営方針・目標の実施状況)

今年度は、生活介護事業４０名（定員６０名）、就労継続支援Ｂ型事業３８名（定員４０名）、計７８名でスタートした。年度末の在籍者数は、年度途中の入所施設への移行等により、生活介護事業３６名、就労継続支援Ｂ型事業は３７名となった。

福祉園全体では、責任者クラスの職員による運営会を組織し、福祉園全体として、一体的な運営に努めた。また、板橋区による感染症対策の基本方針に基づいた運営を行った。なお、感染状況への不安等から引き続き利用を自粛する利用者もいた為、生活介護事業と緊急保護事業においては利用率の低下につながった。指定管理者独自事業としては、引き続き、延長サービスを実施した他、園内宿泊（防災宿泊）も実施した。休日開園を予定していた地域総合防災訓練については、地域の都合に伴い、不参加となった。また、生活介護事業（デイセンターきらら）と就労継続支援Ｂ型事業（ワークセンターはばたき）の自主生産品統一ブランド「ＡＴＢ」については、板橋区内外のイベント等への積極的な参加を通じて、ブランド力の向上及び販売活動の強化を図ってきたが、コロナ禍を経て販売手法も多様化された中、他団体との共同によるオンラインの活用に取り組んだ。なお、近年の日本経済における物価高騰などから利用者中心の生産活動としての持続可能な取組みへと見直し、製作品が渋谷のセレクトショップでの販売につながっている。

事故防止については、マニュアルや事故（再発）予防の検討・周知の手順等の整備が整い、事故事例とヒヤリハット事例からの共有予防対策の検討を事業所ごとの責任体制の中で実施する体制がとれていた。一方で、主任者会内の事故防止委員会でのヒヤリハット案件、事故案件の報告と喫緊で重篤な課題に対して再発防止の検討を行う体制は充分には機能していなかった。事故予測のための意識や姿勢の向上は、利用者理解や支援の向上と共に進むものであるため、継続して事例検討を伴う研修や育成を行う必要があると思われる。

権利擁護に関しては、権利擁護・虐待防止対策に関する法人共通の指針、これまで策定してきた人権擁護・身体拘束等の適正化のためのマニュアルやガイドライン等に則り対応した。また、全職員を対象とした虐待防止セルフチェックを実施した他、管理職層・指導監督職層で人権擁護虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会を兼ねる）を組織し、虐待事案の発見や更なる対策の検討、身体拘束適正化のための研修、啓発教育・予防のための研修企画実施などを行った。身体障害を有する方への支援における身体拘束と不適切な身体拘束についての理解は不十分なため、ガイドラインの修正と事例検討を伴う研修を継続して実施していく必要がある。なお、今年度より、板橋区民生委員（行政書士）を権利擁護・虐待防止委員会の外部委員として迎え、園全体の取り組み強化を図った。

人材育成・定着については、キャリアパス体制に則りつつ、個々の育成課題に関われるように工夫した。具体的には育成担当者が効率よく育成に関われるように管理職層、指導監督層が複層的に育成に関わるようにした。運営会や法人理事長主催の中長期計画策定のプロジェクトと合わせ、結果として、育成者を複層化する必要性とメリットは確認でき、また、人材育成上の課題、その課題

に即した支援体制の編成、人事配置、配置を管理職層と指導監督層で共有できる部分が増えた。引き続き、仕事に対する意識や取り組みの多様性に対応しつつ、引き続き重点的に育成に努めていくが、具体的には、業務遂行、法令順守、法人理念に則った実践の熟度を上げていく研修や育成、一定水準の業務を確実に遂行できるための教育、安定して業務遂行できるような支援者支援等、研修や育成を整理し、目標と実情に合わせて再構築していく必要性があると思われる。

生活介護事業においては、日々の連絡帳とサービス提供記録を合わせた様式を用いることで、家庭との相互理解を深めることができた。あわせて、区立福祉園平準化基準の範囲内において「在園時間の延長」を行い、「延長サービス」とともに家庭支援の一助となっている。また、介助用リフトやアシストスーツなど介助用備品を活用し、利用者の介助への安心感を高めるとともに、車椅子利用者を対象として従来からの検診車での実施に代えて板橋区医師会病院での胸部レントゲン撮影を実施するなど、職員の心身的な負担の減少や福祉業界全体にわたる人手不足を補う対応を行った。活動についても感染症対策を講じつつ、園外での活動を再開。コロナ禍の経験を活かし、いちご狩り、水族館の出張サービスの利用など、園内での活動にも力を入れるなど工夫し、サービスの提供に努めた。

就労継続支援Ｂ型事業においては、作業種が多岐にわたったことで、利用者の選択の幅が増え、利用者の強みを生かした作業展開ができた。一方、生活支援の必要があるケースが散見される為、次年度以降も他機関との連携等を含め、取り組んでいく。また、新型コロナ感染症の流行をきっかけとして自主生産品の販売や企業からの受注作業依頼は減少した中、利用者中心の持続可能な取り組みへと見直したため、工賃の減少傾向は続いている。この状況に対し、販路開拓の一つとして、インスタグラム等のＳＮＳを活用した情報発信にも取り組んだ。なお、利用者の意思表出・決定の場として、２０２３年度より本格的に利用者主体の自治会活動を導入し、行事内容を利用者間で決定するなど取り組んでいる。

緊急保護事業については、近年、介護者の高齢化に伴う急な入院、障害児を中心とした家庭内の問題等により、長期利用を要する利用が増加しており、民間短期入所事業利用までのつなぎとしての利用を含め、板橋区との調整を要するケースが増えている。利用率に大きな変動はなく、緊急を要する利用については、従来通り、板橋区との協議により対応した。また、地域生活支援拠点への整備等を足掛かりに板橋区と協議の上、要綱を見直した。このことから、緊急としての役割がより明確になり、緊急時の受入れ・対応や本人事由の体験利用も新たに設定するなど、地域生活支援拠点における面的機能としての役割も担い、引き続き、各関係機関との連携を図っていく。

２０２３年度の１０月より、板橋区による「板橋キャンパス跡地等における障がい者施設の整備」における既存設備を活用した短期入所事業の整備として、板橋区と協議の上、短期入所事業（利用定員２名/日）を開始した。板橋区における地域生活支援拠点事業の一環としての運営となる。緊急保護事業における介護者と対象者への事業内容の周知及び利用登録の推奨と同時に、障害サービス課地域支援係（旧福祉事務所）等各関係機関にも周知、積極的な情報交換や連携を行うことで、引き続き、新規利用者の開拓にも取り組んでいく。

また、利用契約をきっかけに、障害支援区分の取得を促進することで、社会資源活用の幅を広げることも期待し、地域生活を望む利用者を支えていく役割として担っていく。なお、今年度の７月より送迎事業（緊急保護事業含む）を開始した。

板橋区との関係については、所管である障がい政策課施設係や相談支援事業の円滑な実施に向けて、引き続き、障がいサービス課地域支援係（旧福祉事務所）、相談支援事業所等との連携を進めた。また、施設整備として、小荷物昇降機制御リニューアル改修工事、厨房ファン更新工事が実施された。この他にも老朽化している給排水設備等の要改修事項については、早期の実施に向けて、引き続き対応を協議していく。なお、次年度にも、板橋区によるエレベーター改修など大規模な工事が予定されている。

防災に関しては、区立福祉園として災害発生時の地域の拠点となるべく、福祉避難所としての役割を整理し、また、新型コロナウイルスをはじめとした感染症等への対応として、感染防止対策の徹底を図り、「新型インフルエンザ特措法」に基づくＢＣＰの実効性を図った。その中で、利用者・ご家族への緊急メール訓練の取組みを、新型コロナ感染症に伴うＰＣＲ検査受検時の通知としても活用してきたが、急な設備故障等の施設運営における緊急時の連絡としても活用した。緊急メール訓練を含め、定期的な防災訓練を引き続き実施していく。なお、指定管理事業者独自の取り組みとして、福祉避難所での生活を想定した「防災宿泊訓練」も実施した。

区立福祉園の民営化の検討については、２０２６年度からの５年間についても指定管理者制度による運営が継続となった。次年度は現・指定管理期間の最終年度を迎えるため、中期計画の策定を通し、区立福祉園としての在り方・役割の再検討を進め、次期指定管理期間へのプロポーザルに備える。

運営改善に関しては、自己評価として就労継続支援Ｂ型事業と生活介護事業において、東京都福祉サービス第三者評価の指針に基づいた利用者調査を実施。また、赤塚ホームについては、短期入所事業契約者を対象として利用者調査を実施した。

地域との関係においては、展示販売活動や「赤塚ジモパ」をはじめとした地域行事への積極的な参加を通じて、より密接な交流を進めてきた。開設以来参加してきた「地域総合防災訓練」と同様、感染症対策等により、職員のみの参加となったが、新たに赤塚地域で開催されている「板橋農業まつり」に参加した。また、篠ケ谷戸町会に加え、地域のＮＰＯ法人等の協力を得て開催してきた福祉園祭りについては内容を夏季と秋季の２部構成に変更。夏季は職員と利用者のみでの内部行事として開催。秋季に「地域交流行事」として赤塚ジモパを園外の三角公園にて開催予定としていた。しかし、地域団体の都合により、地域交流行事としての開催には至らなかった。なお、地域包括ケアシステム「板橋区版ＡＩＰ」の支えあい会議下赤塚に会議体の構成員として参画するとともに、板橋区社会福祉法人施設等連絡会の活動についてもオンライン等を活用し、積極的に参加した。

２）月間・年間行事等実施状況

別紙のとおり。

３）職員体制

組織図を添付

４）職員研修

①事業所内研修

期日	研修名	開催場所	参加職員
毎月	動作法研修（牛山卓也講師）	園内	生活介護職員
毎月	動作法研修（藤岡孝志講師）	園内	生活介護職員
通年	接遇研修・権利擁護研修（eラーニング）	園内	全職員対象
４月　２日	車椅子・移乗講習①	園内	新任職員対象
４月　６日	車椅子・移乗講習②	園内	新任職員対象
４月　６日	嚥下講習	園内	新任職員職員
４月１１日	バスリフト講習	園内	全職員対象
８月２４日	権利擁護・虐待防止研修①	園内	全職員対象
９月２７日	権利擁護・虐待防止研修②　外部講師	園内	全職員対象
１１月１日	権利擁護・虐待防止研修③　外部講師	園内	全職員対象
２月１５日	身体拘束適正化研修①	園内	全職員対象
３月　　中	身体拘束適正化研修②　振り返り	園内	全職員対象
３月　７日	個人情報保護研修	園内	全職員対象
３月　７日	環境教育研修	園内	全職員対象
３月　７日	ハラスメント防止研修	園内	全職員対象
３月２７日	医療研修（まん延防止）	園内	全職員対象

②法人内研修

期日	研修名	開催場所	参加職員
９月　２日	ファシリテーター研修	園内	副主任以上
１０月２９日	新任職員フォローアップ研修	園内	５名
３月　１日	全体職員研修①	TKP品川	常勤全職員
３月１６日	新人職員研修	わかばの家	４名
３月２４日	全体職員研修②（動画）	園内・法人本部	全職員対象
通年	心のケア研修	袖ヶ浦	１名
通年	法人拠点間研修	未実施	
	夏季療育合宿	中止	
	冬季療育合宿	中止	

③外部研修

期日	研修名	開催場所	参加職員
５月　８日	上級救命講習	志村消防署	１名
６月１３日	上級救命講習	志村消防署	１名
８月　５日	東京都　強度行動障害研修	国際ファッション	１名

		センター	
８月２８日	東社協　身体拘束適正化研修	東京都社会福祉保健医療研修センター	１名
９月　６日	東京都　スキルアップ研修①	高田馬場	１名
９月１７日	板橋区地域自立支援協議会権利擁護部会①事例検討含む	板橋区役所	１名
９月３０日	東社協　支援スタッフ学習会	東京都社会福祉保健医療研修センター	１名
１０月　２日	東京都　強度行動障害研修	東京たま未来メッセ	１名
１０月　８日	上級救命講習	志村消防署	１名
１０月２２日	東京都　強度行動障害実践研修	東京都福祉保健財団内研修室	１名
１１月　７日	東京都　スキルアップ研修②	御茶ノ水	１名
１１月２０日	板橋区　衛生講習会	板橋グリーンホール	３名
１２月　９日 １０日	全日本自閉症支援者協会　全国大会	岩手アイーナ	２名
１月１０日	板橋区地域自立支援協議会権利擁護部会②事例検討含む	板橋区役所	１名
２月　８日 ９日	日本自閉症協会　全国大会	鎌倉芸術館	３名
２月１７日	東京都　スキルアップ研修③	御茶ノ水	１名
２月１９日	板橋区立福祉園生活介護職員交換研修	加賀福祉園	１名

５）実習生等の受入

形態	受入先	人数
~~業務研修~~	~~人事院公務員研修所~~	~~中止~~
学生実習	東京都市大学	１名
	日本児童教育専門	１名
	星美学園短期大学	１名
	東洋大学	１名
	日本社会事業大学	１名
	目白大学	１名
	大東文化大学	１名
	大正大学	１名
	十文字学園女子大学	１名
	こども教育宝仙大学	１名
	東京都立赤羽北桜高校	２名

教員免許介護等体験		今年度該当なし
職場体験	志村第四中学校	２名
	赤塚第二中学校	２名
	高島第一中学校	２名
ボランティア	個人　※夏ボラ含	４名
	東京都中堅教諭等資質向上研修の一環	１名
	地域交流行事	中止

６）施設整備（建物改修、設備・備品等購入等）

① 小荷物昇降機制御リニューアル改修工事

② 厨房ファン更新工事

７）健康診断等

① 定期健康診断

１１月１９日　野田市小張病院出張検診　ほか　職員６名受診

検査項目：血圧、血液検査、尿検査、心電図、便潜血検査、胸部レントゲン

② 生活習慣病予防検診

各自で受診　職員４５名受診

検査項目：血圧、血液検査、尿検査、心電図、便潜血検査、胸部レントゲン
胃部レントゲン、聴力検査

③ 夜勤対応健診（赤塚ホーム配属職員のみ）

検査項目：診察、血圧測定、視力、聴力、身体計測、尿検査

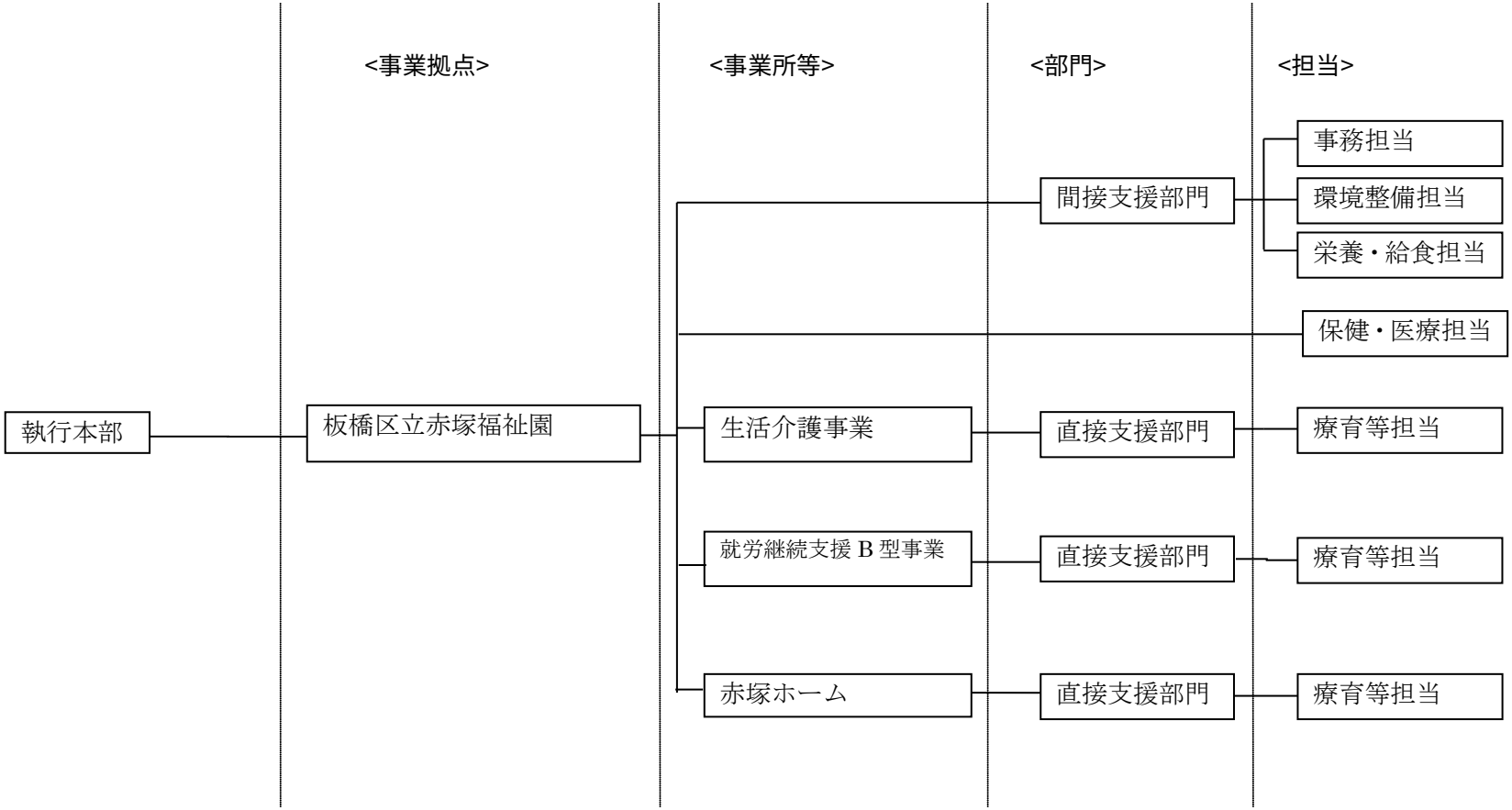
楠医院　職員１１名　各自別日程で受診

④ ストレスチェック

１月に実施　職員５４名　同友会に委託

別　紙(事業報告書関係)　　赤 塚 福 祉 園　年 間 行 事 等 実 施 状 況　(2024年度)

項目／月	行事				職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理	
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	１６	全体家族連絡会			２６	職員会議 権利擁護・虐待防止研修他	2	防災教育	１８	衛生委員会
5月	14･17	センター別家族連絡会			３１	職員会議		防災訓練	１６	衛生委員会
6月	１３	全体家族連絡会	17～21	活動公開	２８	職員会議 虐待防止研修	28 ・ 29	防災宿泊訓練	２０	衛生委員会
7月	１９	赤塚福祉園祭（内部開催）			２６	職員会議		防災訓練	１８	衛生委員会
8月					２３	職員会議 虐待防止研修		防災訓練	２２	衛生委員会
9月					３０	職員会議 虐待防止研修	2～5	安否確認訓練	１９	衛生委員会
10月	２６	区スポーツ大会			２５	職員会議 職員フォローアップ研修		防災訓練	１７ 8・9	衛生委員会 歯科検診
11月					２９ 1	職員会議 虐待防止研修		防災訓練	２１ １９	衛生委員会 利用者健康診断
12月					２７	職員会議		防災訓練	１９	衛生委員会
1月	7～10	区立福祉園作品展			２７	職員会議		防災訓練	１６	衛生委員会 健康管理委員会（まん延防止）

2月			3～7	活動公開	２８ １５	職員会議 身体拘束適正化研修		防災訓練	２０	衛生委員会
3月	１８	全体家族連絡会			1 ２７ 7 ３１	全体職員研修 医療研修（まん延防止） 個人情報保護・環境教育 ハラスメント研修 職員会議		防災訓練	２７	衛生委員会

組織図(板橋区立赤塚福祉園)